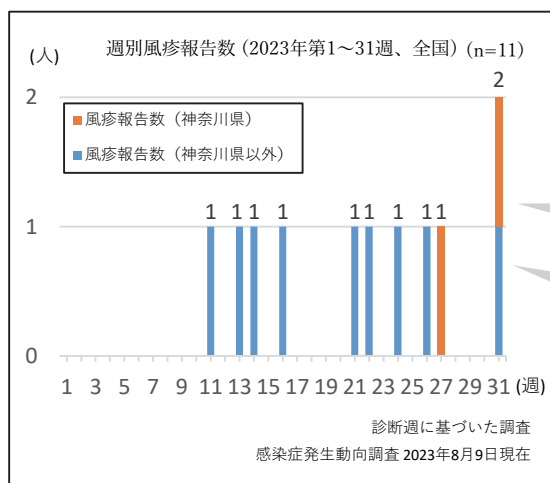


風しんを予防しよう

日本国内で風しんの発生が散見されています。
神奈川県でも、2023年は第31週（7月31日～8月6日）までに2件の報告があります。
風しんについて正しく知って、予防しましょう。

■ 全国および神奈川県における風しんの報告数（2023年）



2023年第31週までに、全国で11人の風疹の報告がありました。11人中2人は、神奈川県での報告です。

11人の予防接種歴の内訳

1回接種：1人、接種なし：1人、不明：8人、未確定：1人

11人の推定感染地域の内訳

国内：6人、国内・国外不明：5人

風疹発生動向調査

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/700-idsc/2131-rubella-doko.html>
速報グラフ（PDF）2023年第31週（'23/08/09現在）より改変

■ 風しんとは？

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。

感染してから14～21日（平均16～18日）の潜伏期間のあとに、**発熱・発疹・リンパ節腫脹**が現れます。のどの痛みや頭痛、結膜炎、関節痛などを伴うこともあります。人によっては症状を示さない不顕性感染となったり、重篤な合併症を起こします。

大人は小児に比べ発熱や発疹の期間が長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

他人へウイルスを感染させる可能性のある期間は、発疹が現れる前1週間から後1週間程度です。



■ 「先天性風しん症候群」について



妊娠20週頃まで（特に妊娠初期）の妊婦が風しんウイルスに感染すると、生まれた子が「先天性風しん症候群」を発症することがあり、注意が必要です。先天性風しん症候群の3大症状として、先天性心疾患・難聴・白内障があり、難聴は高度難聴であることが多いと言われています。2012～2013年の風しんの流行では、45人の赤ちゃんが、2018年～2019年の風しんの流行では、6人の赤ちゃんが先天性風しん症候群と診断され報告されました。風しんは感染力が強い疾患です。身近に妊婦さんがいなくても、どこかで妊婦さんにうつす可能性があります。できるだけ多くの人が風しんにかからないようにして、社会全体で妊婦さんと赤ちゃんを守りましょう。

■ わたしたちができること

風しんの予防には、ワクチンが有効です。

麻しん風しん混合ワクチンは、定期接種の対象となっています。

- ・1歳になったらすぐに第1期の麻しん風しん混合ワクチンを受けましょう。
- ・幼稚園の年長組、保育所の5歳児クラス（2023年度は、2017年4月2日～2018年4月1日生まれ）は第2期の麻しん風しん混合ワクチンを受けましょう。

ワクチン接種歴があるか、母子健康手帳を確認しましょう。

接種の記録がなくても、過去に風しんにかかって免疫がついている場合もあります。医療機関で抗体検査を受けて、風しんに対する免疫がついているか、確認してください。

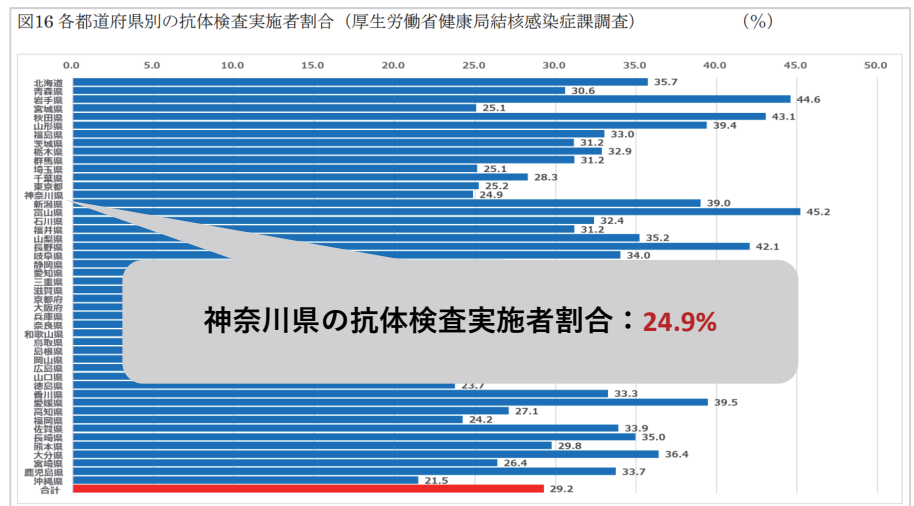
風しん含有ワクチンは、妊娠中に接種できません。接種後は2か月間妊娠を避ける必要があります。

妊娠の予定があり、風しんに対する免疫がない場合は、早目にワクチンを接種しましょう。

■ 風しん第5期定期接種について [神奈川県風しん撲滅作戦 特設ページ](#)

風しん第5期定期接種の取り組みとして、**昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性**を対象に、風しん抗体検査を受け、検査結果に応じて予防接種を受けることが勧奨されています。それ以外の年齢の男性や妊娠希望の女性に対する助成制度については、[神奈川県風しん撲滅作戦 特設ページ](#)をご覧ください。

神奈川県の抗体検査実施者割合は**24.9%**と低く、対象者が風しんに対する抗体を十分に持っていないことが推測されます。本取り組みは**2025年3月まで**継続していますので、積極的に抗体検査を受けましょう。



風疹に関する疫学情報：2023年7月26日現在（国立感染症研究所）より

■ 医療機関の方へ

外来患者さんで、風しんを疑う症状（発熱・発疹・リンパ節腫脹：3つともそろっているのは半数程度）がある方は、風しん含有ワクチンの接種歴をご確認ください。

海外渡航歴もご確認ください。

外来患者さんで、風しんを疑う症状（発熱・発疹・リンパ節腫脹）がある方は、必ず風しんを疑って、**管轄の保健所に臨床診断例として直ちに届出てください。**

地方衛生研究所で風しんウイルスの遺伝子検査を行いますので、[麻しん・風しん検査の検体採取について](#)を参考に、「咽頭拭い液（ウイルス輸送用）」「血液（EDTA-2NaあるいはEDTA-2K、ヘパリンは不可）」「尿」の3点セットをご用意ください。採取の適正期間は発症2～3日前から発症後1週間です。これを過ぎると風しんであっても、検出ができなくなります。

参考文献・参考リンク

・疾患別情報 風しん（神奈川県衛生研究所）

・風しんについて（厚生労働省）

・風疹とは（国立感染症研究所）

・先天性風疹症候群とは（国立感染症研究所）

・風疹 発生動向調査（国立感染症研究所）

・リーフレット「風しん第5期定期接種の対策期間延長における風しん予防接種促進に関する研究」（厚生労働行政推進調査事業（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業））